

▶ 認知症施策推進大綱上の位置づけ

認知症施策推進大綱の基本的考え方

認知症になっても希望をもって日常生活を過ごせる社会を目指し、認知症の人や家族の視点を重視しながら、「共生」と「予防」を車の両輪として施策を推進

共生

- ① 認知症の人が、尊厳と希望を持って認知症とともに生きる
- ② 認知症があってもなくても同じ社会でともに生きる

予防

「認知症にならない」という意味ではなく、「認知症になるのを遅らせる」「認知症になっても進行を緩やかにする」

5つの柱

- ① 普及啓発・本人発信支援
- ② 予防
- ③ 医療・ケア・介護サービス・介護者への支援
- ④ 認知症バリアフリーの推進・若年性認知症の人への支援
・**社会参加支援**
- ⑤ 研究開発・産業促進・国際展開

認知症の人の視点に立って、
認知症の人や家族の意見を踏まえて推進

認知症の人の社会参加活動の推進について

▶これまでの取組み

令和元年度～令和3年度

- ・ 認知症の人がいきいきと暮らし続けるための社会活動推進事業（公益社団法人認知症の人と家族の会に委託）
- ・ 令和元年7月30日より、市内1か所（天王寺区）に、大阪市認知症の人の社会活動推進センター【愛称：ゆっくりの部屋】を開設
- ・ 生きがいや居場所づくりに関する支援を行うことにより社会参加活動の機会を拡げる取組みとともに、認知症の人が体験や思いを伝え合うピアサポート活動等や認知症への社会の理解を深める広報・啓発を実施

実績・課題

年度	ピア職員 配置日数	ピア活動・相談数	拠点での社会活動数 (オンライン活動を含む)	拠点外での 社会活動数	利用延人数
令和元年度	80日	286件	81件	20件	632人
令和2年度	133日	245件	141件	23件	419人
令和3年度(※)	136日	191件	101件	19件	306人
合計	349日	723件	323件	62件	1,357人

(※)令和3年12月時点の実績

- ・ コロナの影響もあったが、認知症の人の社会参加活動に関してニーズがあることが確認できた。
- ・ 一方、認知症の人が遠方から来所することが困難であり、利用者の地域が限定的であった。
- ・ 市域での社会参加活動場所の創出について、様々な試みが行われたものの全市的な波及には至っていない。

ゆっくりの部屋を終了し、これまでの活動で得られた知見を活用することにより、
認知症の人の身近な地域で社会活動に参加できる体制整備を進める

認知症の人がいきいきと暮らし続けるための社会活動推進事業について

主な活動内容

※ゆっくりの部屋活動事例集から抜粋

居場所づくり

いきいき認知症まちライブラリー



「まちライブラリー」は、「本」を介して、「人」と出会おうという活動で、大阪市内では令和3年12月現在で80か所以上が登録されており、カフェやこども食堂、地域サロンなど様々な場所やテーマで活動されている。

ゆっくりの部屋では『「認知症」と一緒にいきいきと暮らし続ける』をテーマに、認知症の人やそのご家族、支援関係者の方へ家族会などを通じて呼びかけ、五冊から始まったライブラリーは、活動に興味を持った方や、介護を卒業された方などからの寄付により、340以上のタイトルが並ぶようになった。来所者の閲覧や貸出、蔵書一覧のWeb公開に加え、月一程度ライブラリーのタイトルをテーマに読書会を開き、当事者をはじめとした参加者同士の交流会を行っている。

情報発信・啓発

ゆっくりタイムズ

ゆっくりの部屋の活動をもっと具体的に、また定期的知ってもらうために作成。写真を貼り付けた簡単なものから始まり、ピアサポーターはイラストやエッセイなどを担当。

活動報告やイベントスケジュール、参加の呼びかけなどを掲載し、Webやメール配信などを行った。

ピアサポーターが今楽しんでいることを中心に、書道やサイクリング、インタビュー形式など趣向を凝らした。



社会参加活動

紙芝居づくり



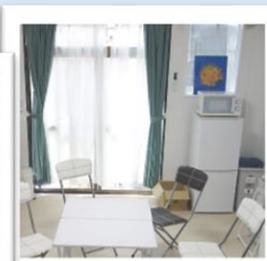
参加のハードルが低く、誰でも、いつでも、どんなことからでも始められる取り組みとして、ピアサポーターの家族の故郷の昔話を題材に、紙芝居作りの経験があるスタッフを中心に作成。

四国の昔話を題材にした「清八のタイムスリップ」、防災にまつわる伝記「いな村の火」の二作を、活動日にできる好きなパートに参加する形で制作をすすめ、役割を分けて複数人で上演し、当日は飛び入り参加も受け付けるなど、多くの人に参加してもらえる取り組みとなった。

本人カフェ



拠点外活動として、また、普段は家族付き添いで活動することが多いピアサポーターが、本人中心にできる活動の一つとして、ピアサポーターのひとりが、認知症の診断後も自宅でコーヒーを淹れ続けているという家族の話をつきかけに始まった取組。認知症の人と家族の会大阪府支部が開催しているつどい「つくしの会」の桃谷版として始め、最初は練習もかねて家族会にも手伝っていただき、二回目からはピアサポーターとスタッフで開催した。



令和4年度からの方向性について

認知症の人が遠方まで通うことが難しい

認知症の人それぞれの希望に沿った社会活動をしたい

既存の社会資源の活用

認知症の人が身近な地域で社会活動に参加できるような体制整備を進める

そのために

各区認知症強化型地域包括支援センターに配置している
認知症地域支援推進員に社会参加活動支援の機能を付加

社会参加活動の形はさまざま…
居場所・趣味活動・ピアサポート・ボランティア・福祉的就労 等々

区域

地域住民

認知症の人やそのご家族
企業・団体 など



社会参加活動の場
(就労支援を含む)

社会資源

認知症カフェ
地域の通い場
就労支援事業所 など



認知症強化型地域包括支援センター

認知症地域支援推進員